

### ①ディレクトフォース

東京に着いて一番初めの企画がこのディレクトフォースでした。初めということもあり、とても緊張しながらの参加でした。

まず初めに、電動義手を作っている近藤玄大さんの講演を聞きました。近藤さんは東京大学卒業後ソニーに就職しましたが、会社を辞めて起業し、現在はまたソニーで働いています。近藤さんは自身が左利きということと、ものづくりをしたいということで大学生の時から義手の開発をしているそうです。近藤さんは、一般に出回っている義手とは違って 3D プリンターを使って作っているので安く、また、あえて黒などの目立つ色の義手を作っています。その理由として、義手でその人の個性を表現したいと考えているからと言っていました。義手もメガネや時計などのウェアラブルアイテムと同じように個性の象徴になるという発想はすごいなと思いました。最後に、色んな人、色んな考え、色んな価値観に触れて出来ることからやってみることが大事だと言っていました。

近藤さんの講演の後、私は前川美湖さん、長崎文康さん、遠藤恭一さんの 3 人の方からお話を伺いました。前川美湖さんは国連開発計画で環境保全プロジェクトを 7 年間担当しており、現在は海洋系の方のプロジェクトを担当しているそうです。前川さんは、主に海外での生活のことと英語についてのことを話してくださいました。海外で生活する際には、健康管理とその国の文化を理解して相手に対する敬意を持つことが大事だそうです。英語に関しては、音読が一番良いと言っていました。語彙を増やし、コミュニケーションの場を多く持ちミスを恐れないことが英語力向上に繋がるそうです。長崎文康さんは、中央労働委員会などで働いている方です。長崎さんは、考える力をつけることや傾聴が大事だということを教えてくださいました。また、企業の採用試験ではあえて相手が予想してきた受け答えとは全く違うような質問をするということも話してくれました。遠藤恭一さんはアメリカ、イギリス、ブラジルで働いたことのある方で、たくさん経験を通して視野を広げることの意義、相手と話す際の話題づくりの重要性、自分の意見や考えをしっかりと持つことの大切さなどを熱く話してくれました。

この企画を通して、世界でも活躍している方のお話を聞いてその考え方などを吸収するだけではなく、自分の将来を考えるきっかけにもなり、有意義な時間を過ごすことが出来ました。今回来てくださった方のように、社会で役に立つ人になりたいと改めて思いました。

### ②外務省

私たちの班は霞ヶ関にある外務省を訪れました。

外務省は、日本と世界の平和と安全と繁栄を実現するために様々な外交活動に取り組んでいる機関です。外務省には、霞ヶ関にある外務本省と世界 149 ヶ国に置かれている在外公館で構成されています。外務省を案内してくれた方は、在外公館で現地の情報を集め、その情報を外務



本省で分析し政策などを決めると言っていました。また、外務省がしている外交を具体的に教えてくれました。外務省は国連加盟国と経済やテロなどについての話し合いをしたり、開発協力(ODA など)をしたりして平和と安全と繁栄に貢献するだけではなく、日本のアピールをして国際社会で良いイメージをつけることも目的のひとつだそうです。現在世界には 196 ヶ国の国のうち、約 80%(数にすると約 150 ヶ国)の国が開発途上国であるため、数少ない先進国である日本が積極的に開発援助をすることが大事だということも言っていました。

その後、国連政策課で働いている佐野さん(二高 OG で東大文 I 出身)からお話を聞きました。大学時代は色々な国に訪れたことや、仕事をする時には日本と違う文化、働き方、価値観などに工夫して対処するのが大切だということを話してくれました。また、外務省は必要とされる英語のコミュニケーション能力がとても高く、外国の方と話す際には明確な発音で話すことと共通の話題を見つけることに気を付けているそうです。

外務省を訪問して、自分の身の周りのことだけではなく国際的なことにも目を向けるべきなんだと気付かされました。また、官僚の仕事もかっこよくていいなと思いました。

### ③OBOG による座談会

座談会でお話した東大生の皆さんはとても優しく面白い方々でした。

一番最初にお話した佐藤大希さんからは、将来のことや高校時代のことについてのアドバイスを聞くことが出来ました。勉強ばかりではなく高校生活をとにかく楽しむこと、自分がやりたいことを見つけることの大切さを教えてくれました。私が特に印象に残っているのが「N2SF」という言葉です。NはNow(今やっていること)、2SはPowerPoints(自分の強みなど)、FはFuture(将来の夢)を意味するそうです。このN2SFを意識して自己紹介をすると、自分がやりたいことを人に伝えるので目標が明確になったり、自分に自信がついたりして良いそうなので、私もこのN2SFを意識して自己紹介が出来るように頑張りたいです。

小関健斗さんと佐藤ひなたさんからは、勉強の仕方を教えてもらいました。2人のお話で共通していたことは、コツコツ勉強することと簡単な問題から取り組むことでした。遊んで息抜きをすることも大切ですが、毎日コツコツ勉強する習慣をつけると受験の時や大学に入ってから役に立つそうです。具体的な勉強方法としては、簡単な問題から解いてしっかりと基礎を固めてから難しい問題に取り組むと良いということをお話していただきました。基礎が固まってない状態でいきなり難しい問題を解いても苦手意識を持つだけなので、簡単な問題を解いてから応用問題を解くと効率良く勉強出来るそうです。早速実践してみようと思いました。

鈴木敦志さんには、高校時代にやっておくべきことをお伺いしました。敦志さんから、幼稚園の時から東大に入りたいたいと思っていたと聞き、とても驚きました。高校時代にやっておくべきこととして一番に言われたのは、本を読むことです。東大に入って周りの人との知識の差を感じ、高校のうちに本(特に博物書)をたくさん読んでおけば良かったと後悔しているそうです。私は



最近本を読み始めたのですが、小説を主に読んでいたので、今度からは博物書を読んで知識を蓄えられるように頑張りたいです。また、東大生あるあるも聞くことができました。驚くことに、東大生のピアノを弾ける率はほぼ 100%ではないかと言っていました。

この座談会では、勉強のことだけではなく、将来のことについての考え方や高校時代のことについても聞くことが出来てとてもためになりました。モチベーションも上がったので、今回の座談会の内容を忘れず今後の高校生活に活かしていきたいです。

#### ④FairWind 企画

FairWind の東大生に案内してもらって東京大学を見学しました。それは夢のような時間でした。午前中は駒場キャンパス、午後は本郷キャンパスに行きました。

駒場キャンパスでは、キャンパスと図書館の案内と東大についてのプレゼンテーションをしてもらい、自分を見つめなおすワークショップもしました。駒場キャンパスは自然豊かな感じがして雰囲気がとても良かったです。キャンパス内にあるいちょう並木が黄色くなる前に女子は彼氏を作らないと一生彼氏が出来ないという言い伝えがあるそうです。また、図書館は二高と比べ物にならないくらい大きくて、自習できるスペースも広がりました。本は、日本語の本だけではなく、外国語で書かれている本や新聞などもたくさん置いてあり、学習環境が整っていました。キャンパス見学後は東大についてのプレゼンテーションを聞きました。東大の進振りは、他の大学にはなく、とても良い制度だと思いました。ワークショップでは自分の将来の夢を書く欄があったのですが私は全然書くことが出来なかったもので、OBOG との座談会で学んだことを活かして自分の将来について考えていきたいです。

本郷キャンパスでは、法学部の准教授の 2 人の先生方による模擬講義をまじかで受けることが出来ました。内容は法律のことについてで、ペースを落として説明してくれましたがやはり少し難しいなと感じました。私は理系選択なので農学部の研究室を見たかったという気持ちもありましたが、文系の法学部の模擬講義を受けることができ、大学進学の際の学部選択の視野が広がったと思うので良かったです。

実際に自分の目で東大を見学し、模擬講義も受けることができ本当に良かったです。目標を見つけてこれから頑張っていこうと思います。